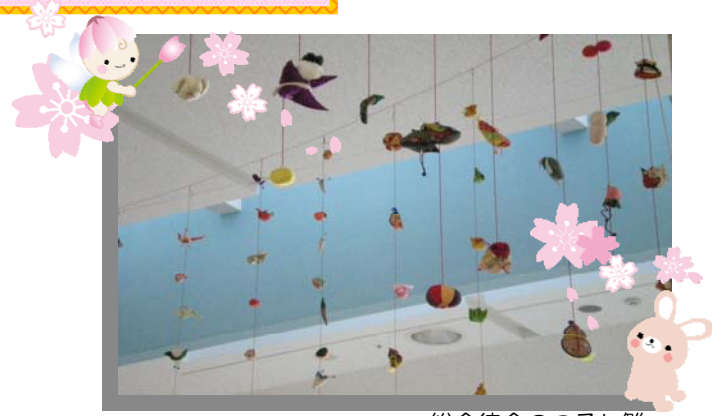


# 地域医療連携室だより

地域医療支援病院 登録医療機関 172件

2010年3月



総合待合のつるし雛

## 地方独立行政法人化に期待すること

看護局長 古旗美恵子

昨年は、メキシコから始まった新型インフルエンザの対応に翻弄されましたが、職員や患者・ご家族の皆様の協力を得て、院内での拡大を最小限に防止できました。年明けには罹患患者数も減少し、やや安堵いたしました。

今年、こども医療センターは創立40周年を迎えます。4月からは地方独立行政法人へ移行するなど、こども医療センターとして節目の年と考えます。地方独立法人に移行しても県立病院として基本的な役割は変わりませんが、気持ちを新たにし、従来の専門医療をより充実させていく必要があると思っています。地方独立行政法人化することにより、職員の定数に対する規制が緩和され、各病院の実情に応じた人員確保ができるようになることに対して、私を始め看護職員は大きな期待を持っています。こども医療センターは他の県立病院に比べいち早く7:1看護師配置による施設基準を取得していますが、小児専門病院として十分な配置とは考えていません。疾病構造が複雑化し、在院日数が短縮している中で、こどもたちのケアには成人の倍以上の手間がかかります。幸い当センターにはこどもが好きで小児看護を深めたいと考える看護師が数多く集まってきています。忙しくても看護師は熱心に学び、こどもと家族に最善の利益が守られるようケアをしています。疾病による痛み、検査や治療による痛みを和らげ、こどもらしい生活を送れるよう支援しています。看護師たちがバーンアウトしないでゆとりをもって働けるよう、環境を整えることが必要と考えています。そのことは同時に、こどもたちの入院環境を整えることに繋がっていると思うからです。また、4月には改正保健師助産師看護師法も施行されます。看護師の卒後臨床研修が努力義務化されたことは大きな意義のあることです。当センターにおいても新人の教育体制の見直しを行い充実を図りたいと思います。



## 遺伝子解析技術の進歩と遺伝カウンセリング



遺伝科 黒澤健司

遺伝性難病の原因は依然として多くのことが分かっていません。ようやく次世代超高速シーケンサーやアレイ CGH というヒト全ゲノム解析技術が、臨床応用される時代が見え始めました。一方で、医療における対象はヒトではなく「ひと」であり、こころを持ち、社会のなかの一人です。自分や家族の遺伝性難病の原因を何としても知りたいと考えることもあれば、それだけは知りたくないとも考えられます。その両方の思いが混在することもあります。遺伝情報は、個人における疾患の易罹患性を示すだけでなく、世代を超えて子孫や家族に重大な影響をもち、多くの情報を含む故に、特別な配慮が必要であるとされています（2003年、UNESCO「ヒト遺伝情報に関する国際宣言」）。だからこそ、機械から出てくる膨大な遺伝情報を整理し、伝え、その人生に照らし合わせて、ともに考える遺伝カウンセリングが益々重要になります。

こども医療センターの遺伝科は、染色体がまだ実験室の研究課題であった時代から、小児医療の一分野として遺伝医療に取り組んで来ました。看護局の理解を得て、2名の認定遺伝カウンセラーも合流、協働しています。遺伝科は、新しい技術と知識を可能な限り取り入れ、本当に必要とされる遺伝医療の形を目指しています。



## 全身麻酔下歯科治療を行っている障害児の総合歯科



歯科 井上吉登

知的障害、自閉症、脳性まひなどにより歯科治療が困難な方の場合、以前はからだを椅子に縛り付けて治療をしていた時代がありました。しかし、患者さんが大変だけでなく、治療に危険を伴うことが少なくありません。そこで、当歯科では開設当初から協力の得られない障害児のむし歯治療を全身麻酔で行っています。全身麻酔での治療の場合2泊3日の入院が必要です。入院中のお子さんの安心のために親御さんに付き添っていただき個室へ入院することも可能です。心疾患や喘息、てんかんのある患者さんでも各科専門医の協力のもと全身麻酔下歯科治療もほぼ問題なく行っております。また、先天性心疾患や特殊な基礎疾患をお持ちのお子さんの通院での歯科治療も行っております。摂食・嚥下障害の患者さんの指導は摂食・嚥下リハ学会認定士が重度の方に限り診察しています。腫瘍や嚢胞などの口腔外科疾患は口腔外科専門医が担当します。また、健康保険適応となる一部の先天性疾患の方の歯科矯正診療も行っています。



## 地域医療連携活動 — 新生児科での取り組み



新生児科 大山 牧子

前回に引き続き、新生児科が中心に行っている、地域医療連携活動についてご紹介します。当院では産科・新生児病棟ともに母乳育児支援を充実させています。転院する赤ちゃんもほぼ100%母乳で育ち、ご家族は転院後も母乳で育てたいと望んでいます。NICU に入院中の児が退院後も母乳で育てられるためには、適切な情報とカウンセリングスキルを持った支援者が必要といわれています。院内院外のスタッフが母乳育児支援を適切に行えるよう、以下の三つの活動を展開しています。一つめは、3年前から始めた「地域医療連携室主催の母乳育児学習会」で年に2回開いています。二つめは、個々の地域病院に「母乳育児支援の講義の出前」をすることです。これまで、国際親善病院、横浜市民病院、横浜医療センターに複数回出向いて、その病院のニーズに合わせた講義をし、意見交換をしています。三つめは、NICU のある病院のスタッフを対象にした少人数での参加型の「母乳育児支援セミナー」です。このセミナーでは、適切な情報とカウンセリングスキルを使うことで、母親が自らの力で母乳育児をしていけるよう支援することを目指しています。



## 患者さんとご家族の「えがお」と「げんき」のために みんなでちからをあわせます

看護教育科 秦 裕美

看護教育科には、現在、小児看護専門看護師 1 名、皮膚・排泄ケア認定看護師 1 名を含め 5 名のメンバーがいます。看護教育科の業務は、院内で行う集合研修の企画・実施・評価、看護師のキャリア形成への支援、母子看護専門コース（母子看護を専門的に学ぶことができるよう院内独自でカリキュラムしている研修）の運営、各セクションでの分散教育の支援、実習や研修、見学者の受け入れなど多岐にわたります。今年度は 60 名を超える新採用看護師を迎えました。こども医療センターは小児専門病院であり、看護師にはより専門的な知識や技術が求められますが、患者さんやご家族にとっては新人看護師もスタッフの一人であり、病棟に配属されるとすぐに多くの看護技術を習得する必要があります。

病棟では、患者さんとそのご家族の QOL を考え、患者さんが安心して治療や看護がうけられるよう、新人看護師の育成、精神的支援を行い看護の質を維持するための努力を行っています。そのような中、看護教育科では、新人看護師のみならずすべての看護師が充実感や達成感を持って、自分の看護に誇りを持ち続けられるような研修を企画し、看護科長、現任教育担当者をはじめとした多くのスタッフと協力して支援しています。

## 神奈川県立こども医療センターの基本理念と基本方針

### 1 基本理念

こどもの健康の回復及び増進と福祉の向上のため、最善の医療を提供します。

### 2 こども向け基本理念 — わたしたちのちかい —

あなたの「げんき」と「えがお」のためにみんなでちからをあわせませます。

### 3 基本方針

- (1) 患者さんの命と安全を第一に考えます。
- (2) 患者さんと家族とともに医療を行います。
- (3) 高度、先進的な医療を行います。
- (4) こどもの発育、発達を考えた療養環境、教育環境を整えます。
- (5) 周産期・小児医療と保健・福祉に携わる人材育成に努めます。
- (6) 地域の関係機関と連携し、周産期・小児医療の充実、向上に貢献します。
- (7) 透明度の高い病院運営と情報公開に努めます。

## 神奈川県立こども医療センター・研修のご案内

### 第80回 学術集談会

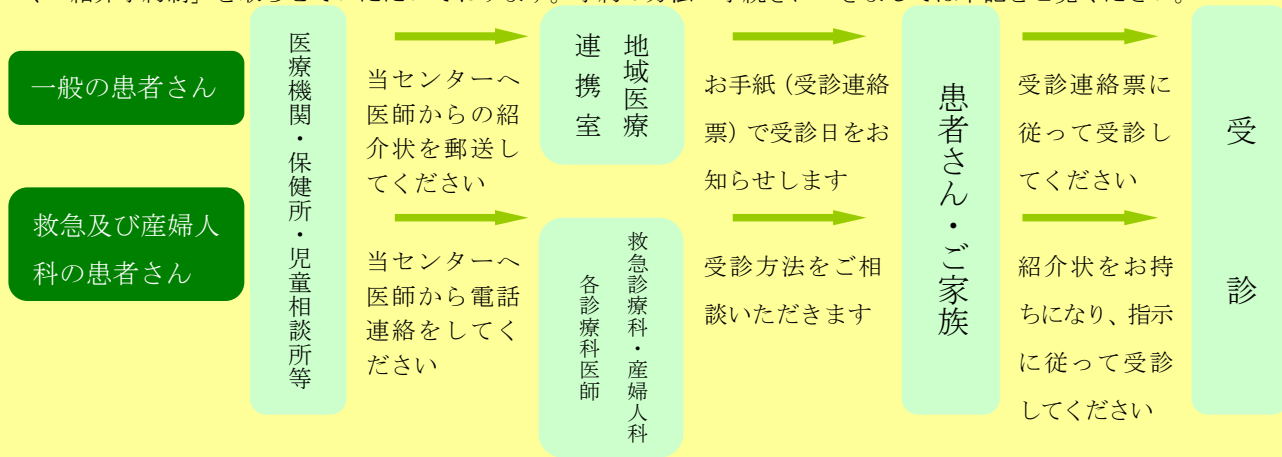
- ☆ 日時：平成22年6月12日(土) 14:00~17:00
- ☆ 場所：かながわ県民センター
- ☆ テーマ：緩和ケア（仮題）
- ☆ お問合せ：総務課

### 第8回 小児科夏季セミナー

- ☆ 日時：平成22年8月7日(土)・8日(日)
- ☆ 場所：当センター本館2階講堂
- ☆ 講師：当センター医師
- ☆ お問合せ：地域医療連携室

## 【紹介予約受診システム】

当センターは、医療機関や保健所等からご紹介いただいた患者さんが、初診の予約をお取りになり受診していただく「紹介予約制」を取らせていただいております。予約の方法・手続きにつきましては下記をご覧ください。



※紹介状用紙(料金受取人払)の送付をご希望の場合は、地域医療連携室までご連絡ください

編集・発行

神奈川県立こども医療センター 地域医療連携室  
〒232-8555 横浜市南区六ツ川 2-138-4 TEL 045(711)2351 FAX 045(710)1933  
<http://www.pref.kanagawa.jp/osirase/byouin/kodomo>  
<http://kanagawa-pho.jp/osirase/byouin/kodomo/> (平成22年4月1日より変更となります)

